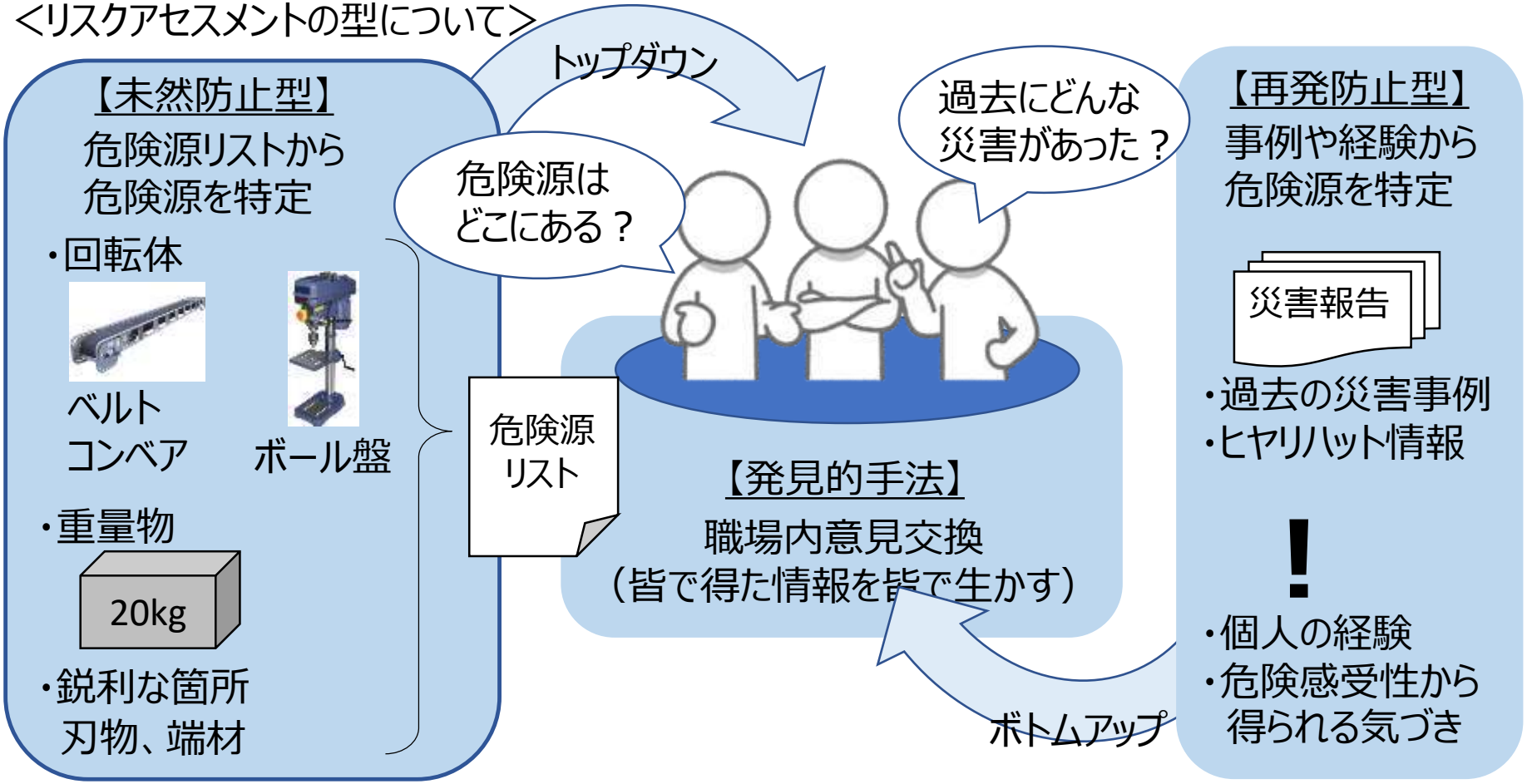
向殿SWG報告資料

2021.06.15

資料２

１．これまでの議論のとりまとめ

＜リスクアセスメントの型について＞



＜現状の課題＞

再発防止型の観点が重要視され、未然防止型の観点が弱く網羅的なRAに至っていない。

・危険源リストの利用が不透明

・再発防止型の情報量に限界がある

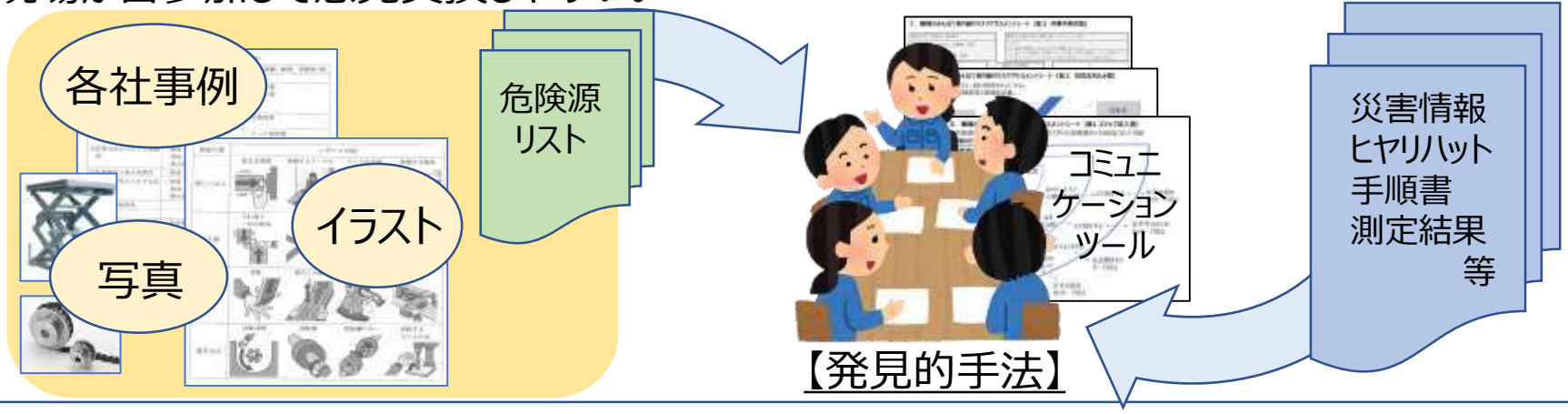
2．今後の進め方

・「発見的手法」を潤滑に行えるための、共通利用できる危険源リストと使いやすいコミュニケーションツールの案を作成。
・各業界団体を通じた業態横断的な情報の共有化により、再発防止型の情報量と危険源の具体例を増やす。

▶ 現場全員でRAにとりかかりやすく

＜危険源リストとコミュニケーションツールの案イメージ＞

・ISO（JIS）を元に、具体的な設備や作業を挙げ、事故の型との関連性も明確にすることで、現場が危険源をイメージしやすい。（写真やイラストを活用し、より感覚的に理解できる）
・作成は既存テキスト類だけでなく、各業界団体で使用しているものも盛り込む。
・現場が皆参加して意見交換しやすい。



＜活動のステップ＞

【望ましい姿の作成提示】
危険源リスト、コミュニケーションツール案を、SWGの意見を交えながら検討。
2021年8月

▶

【各社情報と意見の収集】
各社のRAにおけるコミュニケーションの取り方を調査。
リスト・ツールのレベルアップ。
2022年3月

▶

【災害のＲＡ漏れ検証】
過去災害に対し、発見的手法を意識して再度RAを実施、改善点を得る。
（ツールの改善とトライアル）